

広報

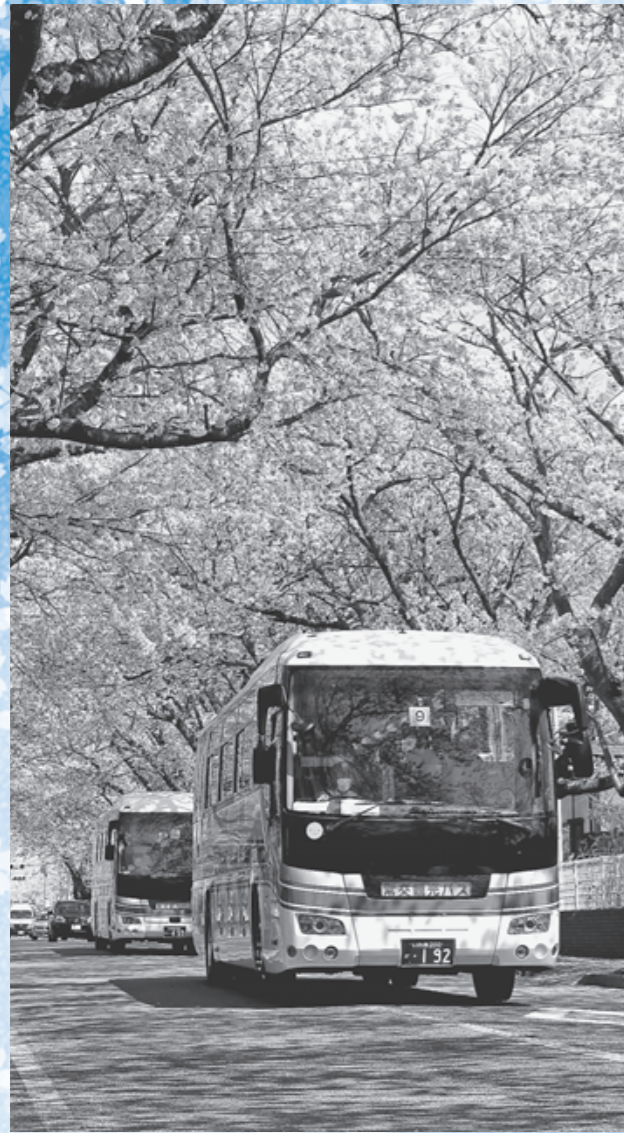
my hometown TOMIOKA 2014

とみおか

5

No.619

四年目の春の訪れ



参加者を出迎えた満開の桜



復興への集い 開催によせて
富岡町長 宮本皓一

富岡町復興への集い2014の開催に際し、ご参加いただいた多くの町民の皆様、快く会場をお貸しくださった広野町さん、そしてご協力を賜りました全ての皆様に厚く御礼申し上げます。
富岡町に住まわれていた頃、皆様には心豊かな生活があったわけですが、それが震災に伴う原発事故により全町民が避難を強

いられ、現在も続く仮設住宅や借上げ住宅での生活で、心に累積する不平不満がたくさんあることと思います。しかし、そんな生活の中でも、暗い気持ちではないのか、心の復興というものを願いたいと思います。
本日、皆様には常磐自動車道広野・富岡間の再開通、1月から始まった本格除染、防火の観点からの田畑の除草など富岡町内の状況を見ていただきましたが、それ以外にも町内での復興事業は着実に進んでいます。今後、皆様は去年より今年は良い年だったと思っただけのよう頑張っただけです。ですので、より一層のご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。



宮本町長に義援金を手渡す品川区の山田副区長(上)と彦根市ひこにゃん

町民相互の絆を深め、故郷への思いを抱き続けてもらうことを目的とした富岡町復興への集い2014が4月12日、広野町中央体育館で行われ、県内外の避難先から参加した町民450人のほか、物心両面でご支援をいただいている埼玉県杉戸町の古谷松雄町長、東京都品川区の山田恵美子副区長など、本町の復興を願う多くの方々会場を訪れました。
開会セレモニーでは、宮本町長の挨拶に続き塚野芳美町議会議長、亀岡偉民・小泉進次郎両復興政務官、遠藤智広広野町長、坂本栄司・吉田栄光両県議会議員などからご祝辞をいただき、小泉政務官は「皆さんが復興を実感できるような力を尽くすことが私たちの仕事。将来の富岡町の集いが、桜の下で行える日まで頑張らましよう」と参加者を激励。復興に向けて共に歩む決意を新たにしました。
続いて行われたアトラクショ

ンでは「チーム富岡さくらYOSAKOI」の皆さんによるエネルギッシュな演舞、本町出身の歌手・よの森あかねさんや普天間かおりさん、村井敏朗さんらのステージが繰り広げられたほか、杉戸町の「すぎびよん」や、同町と共にご支援をいただいている滋賀県彦根市の「ひこにゃん」、福島県の「八重たん」などのゆるキャラも登場し、集いに花を添えました。会場内では、富岡町婦人会の皆さんが作った「どんこ汁」も振る舞われ、ご近所や友人同士で再会を喜び合い、にぎやかに歓談する皆さんの笑顔の輪が広がりました。
また、集いの開始前には、参加者に乗せたバス17台が富岡町内に向かい、車中から復興の取り組みを確認。途中の夜の森地区では満開となった桜の迎えを受け、参加者の皆さんはそれぞれの思いを胸に、本町の宝である桜を目に焼き付けていました。



富岡町復興への集い2014

いつの日か、桜の下で
会えることを信じ...





桜が つなぐ 希望の絆と 明日への希望

・ 宍戸信子さん(夜の森駅前南)
 去年は桜があまり咲かなかったので、今年はとても感動しました。次回はもっとゆつくり見ることができれば嬉しいです。

・ 宗像キイ子さん(王塚)
 富岡にいる時は、桜があるのが当たり前だと思っていました。しかし突然の避難で離れることになり、あらためてこんなきれいな場所に住んでいたんだと感じました。
 この先どうなるかわかりませんが、毎年桜を見られるように頑張りたいと思います。

・ えびすこ市場・林政典さん(夜の森駅前北)
 参加された方々は皆とても楽しく嬉しそうな表情でした。
 震災前、私は富岡青果市場に勤務していましたが、ご高齢の知り合いも多く、今日は皆さんと再会できて本当に良かったと思います。

・ 野口勝美さん(新町)
 猪苗代町に避難していますが、集いの前に家の様子を確認に行きながら、桜も見えて来ました。この時期になると、やっぱり桜が恋しくなります。久しぶりに知人と会い、昔話に花が咲きました。集いは複雑な気持ちです。避難した新しい場所で生活を始めている人が多いためか、参加する人が少しずつ減っている気がして淋しく感じます。

・ 志賀清民さん(仏浜)
 4年ぶりに桜を見ましたが、満開の桜に感動し涙が出ました。桜並木は子どもの頃から歩いた思い出もあるし、大人になって宴会でお酒を飲んだ楽しい思い出もあります。
 集いには多くの人が参加していますが、知り合いがあまりいません。バラバラに避難した証拠だと思えます。これから参加者が増えていくことを願っています。



入園・入学

おめでとう

「3つの種」をプレゼント 町立富岡幼稚園入園式

町立富岡幼稚園の入園式が4月7日、同園で行われ、3名の新入園児を迎えました。

式では、新井川美千枝園長が「げんき・やるき・がまんの3つの種をプレゼントします。大きく育てて、きれいな花を咲かせてください」と話し、子どもたちは、「はい」と大きな返事で答えました。



一中・二中の枠を超え支え合う 富岡第一・第二中学校入学式

4月7日、町立富岡第一・第二中学校の入学式が同校三春校で行われ、富岡一中5名、富岡二中1名の計6名が真新しい制服に袖を通しました。

式では、富岡二中の山田克行校長が「将来にわたって夢と希望を持ち、たくましく生き抜く力を身に付けてください」と式辞を述べ、新生にエールを送りました。



春のやわらかな光がふり注いだ4月初旬、町立富岡幼稚園、富岡第一・第二中学校、県立富岡高等学校で入園式・入学式が行われ、園児・生徒たちの新しい生活がスタートしました。

バドミントンのスペシャリストを目指して 富岡一中ビクトリープログラム生 仮入学式

富岡第一中学校バドミントン・ビクトリープログラム生の仮入学式が4月4日、同校三春校で行われ、男女合わせて7名がトップアスリートを目指しスタートを切りました。

式では、富岡一中の吉田隆見校長が「世界に通用するスペシャリストを目指し、猪苗代の地で意欲的に練習に励んでください」と生徒たちを激励。新入

生を代表して千葉美采さん(郡山市出身)が「新しい仲間と支え合い、先輩たちが築き上げた輝かしい成績を目指し、日々努力していきます」と誓いの言葉を述べました。

同バドミントン部は震災後、富岡一中を原籍校として避難先の猪苗代中学校に通学。中体連関係の大会は猪苗代中として、日本バドミントン協会主催など他の大会は富岡一中として出場しています。全国中学校体育大会では昨年まで男子が4連覇、女子が3連覇を果たすなど、今後の活躍が期待されます。

仮入学式を終え、福岡県出身の高嶋集君は「先輩方に近づけるよう頑張る、3年生になった時には全校で個人と団体の2冠を目指したいです」と力強く抱負を語ってくれました。



富岡一中バドミントンビクトリープログラム生の皆さん(前列7名が新入学生)

富高の名のもとに飛躍を誓う 富岡高等学校入学式

4月8日、富岡高等学校の入学式が福島市の県文化センターで行われ、66名の新生が高校生活をスタートしました。

現在、県内外4カ所のサテライト校で学ぶ同校では、来年度からの県立中高一貫校(広野町)開校に伴い富岡高校としての生徒募集が当分の間休止となります。式では、大和田修校長が「ひたむきに日々の勉強やスポーツに励むことで、本校の名前や伝統を引き継ぐことに繋がります」と生徒たちのさらなる活躍へ期待を込め、新生を激励しました。

また、今年度は小学校の卒業直前に被災し、離れ離れになっていた富岡二小の同級生3名が入学。サッカー部に入部する遠藤弘輝君が「最後の富高生として、その名に恥じぬよういつでも上を目指し努力していきたいです」と、これから始まる高校生活の抱負を話し、久しぶりの再会を喜びながら、お互いの活躍を誓い合っていました。



富岡町出身の新生。左から安齋綾夏さん(バドミントン部)、秋元遥さん(JFAアカデミー福島)、遠藤弘輝君(サッカー部)

東京電力に対し 町から賠償問題など3項目を要望

東京電力株式会社の敷土(すど)文夫会長が4月2日、富岡町役場郡山事務所を訪れ、宮本町長ら町執行部と会談を行いました。

会談では、敷土会長に原発事故収束や賠償に関わる要望書が手渡されたほか、一般家財及び仏壇以外の高額家財の賠償と、宅地・田畑以外の山林、雑種地等の土地、山林の立木に関する賠償の2点について、



敷土会長(右)に要望書を手渡す宮本町長

早期の賠償基準明示を求めました。

話し合いの中で宮本町長は、「富岡町は今後、除染を経て帰還という道をたどるが、原発のトラブルが続くと帰還に躊躇する町民が出てくる。また賠償については、今回第四次追補において、帰還困難区域には新たな賠償となる指針が出されたが、富岡町は避難指示区域を見直す際、住宅密集地を分けて区域を決めた経過がある。これを考慮し町民、区域同士の格差や分断が生じない賠償をしてもらいたい。さらに、実情に即した住居確保損害についても対応をお願いしたい」と述べ、敷土会長に3項目(下記参照)の要望書を手渡しました。

これに対し敷土会長が「先日、佐藤県知事から『福島県があるから東京電力がある。東電があつて福島があるのではない』との言葉をいただいたが、このことを非常に重く受け止めている。住民の皆さまが生活する上での要望や賠償問題について、不満を与えることのないよう対応したい。また、廃炉についても日本の総力を結集し作業を進めたい」と述べ、蓄積している多くの問題について、しっかりと取り組む姿勢を示しました。

渡邊良一さん(本町)に旭日単光章



元富岡町議会議員の渡邊良一さん(本町)が、議員活動等で顕著な功績を残した方に授与される旭日単光章を受賞し、2月26日、避難先の千葉県柏市にて表彰されました。

渡邊さんは、富岡町議会議員として5期20年在職(昭和51年～平成8年)。議会産業建設常任委員及び同文教厚生常任委員会委員ほか各種委員を務め、長年にわたり町政の発展にご尽力されました。

◀勲章を身に付けた渡邊さん

富岡町教育委員・教育長が決定

3月に行われた富岡町議会の同意を得て、欠員となっていた2名の教育委員が決定し、4月1日に開かれた第5回教育委員会臨時会にて教育委員長に関本征司さんが、教育長に石井賢一さんが選任されました。

石井教育長は就任挨拶の中で「今まで他の地区から富岡の教育について見てきたが、富岡町民の教育発展に対する大きな力を感じている。その発展のために頑張っていきたい」と抱負を述べました。



左から鈴木文子さん、渡邊和夫さん、関本征司教育委員長、石井賢一教育長(新)、猪狩いづみさん(新)



石井賢一 教育長
富岡町大膳町出身。福島大学を卒業後、教員となり平成26年3月、浪江小学校長を最後に退職。60才。

◇東京電力株式会社への要望詳細

一、原子力発電所事故の早期収束
東京電力(株)福島第一原子力発電所事故の早期収束と原子力発電施設の安全確保は、住民が安心して帰還し、町の復興再生を実現する大前提となるものである。

しかしながら、今もなお汚染水の流しなどトラブルが相次ぎ、事故の収束には程遠い状況にあり、町民の安全・安心が確保できないばかりか、帰還意欲を低下させる大きな要因となっている。これ以上汚染水や放射能汚染物質が海洋や周辺に拡散することがないよう万全を期するとともに、事故の早期収束を図り、住民の安全・安心に資する対策を確実に実施することを要望する。

二、精神的損害の一括賠償
今般、東京電力は移住を余儀なくされたことによる精神的損害として、帰還困難区域の住民に一人あたり700万円を追加賠償するとしている。

しかしながら、帰還困難区域、居住制限区域や避難指示解除準備区域に分断される富岡町においては、除染やインフラ復旧は思うように入らないのが実情である。さらには国が示す年間線量の基準が安全かどうかは明確にされておらず、時間経過とともに進行する住宅の損傷の状況は変わらない。

このように、避難指示区域による状況に大きな違いがない中で賠償格差が生じることにより、地域や住民間の分断が起りかねず、町の復興に大きな足かせになるものと大いに懸念される。このため、居住制限区域、避難指示解除準備区域の精神的損害についても、帰還困難区域と同様の一括賠償となるよう要望する。

三、実情に即した住居確保損害の宅地賠償
原賠審第4次追補で示された住居確保損害のうち、宅地の算定基準については県内主要避難先の6都市から平均面積と平均単価を算出し上限としている。

しかしながら、富岡町から最も多く町民が避難しているいわき市などの土地価格は急騰し、実態と基準で大きな隔たりが生じている。土地取得の面積と価格に上限を定めず、実際の購入価格を十分踏まえた賠償額になるよう要望する。また、居住制限区域及び避難指示解除準備区域における土地価格の算定については、帰還困難区域との格差を設けているが、当町の実情を十分に考慮し帰還困難区域と同様の賠償となるよう要望する。

「まちづくり計画」が完成 町へ提案し2次計画に反映

町民の生活再建や町内の防災機能、復興拠点などについて議論を重ねてきた富岡町まちづくり検討委員会(委員長・土方吉雄)は、このほど、『富岡町復興まちづくり計画』をまとめました(広報とみおか4月号お知らせ版に「概要版」を同封いたしました)。

計画には、賠償や除染など、生活再建や町の復興の根幹に関わる情報を始め、計画冒頭には今後とるべき町の姿勢を明記しました。また、町内の低線量地域や津波被災地区の防災、直近の生活再建などについて記述しているほか、避難生活を送る町民の皆さんの「心の復興」の重要性を訴えました。特に、避難先地域の皆さんとの交流や、全国に避難する子どもたちへの「ふるさと教育」を行うための具体策を記しました。

町は今後、町内で受け継がれてきたお祭りや伝統行事などを避難先でも徐々に再開できるように準備を進めておりま

委員長が町長に「提案」

土方委員長は3月24日、富岡町役場郡山事務所で宮本皓一町長に計画を手渡し、計画の趣旨を説明。続いて今後のまちづくりなどについて意見を交換しました。町は今後策定を進める「富岡町災害復興計画(第二次)」に「まちづくり計画」を盛り込んで、復興への具体的な政策を進める方針です。

企画課まちづくり係



平成26年度
出張特別試験のご案内

労働安全衛生法に基づく各種免許試験のうち、東北各地区における学科試験を下記の通り実施します。詳しくは、各地区別の「出張特別試験案内」をご覧ください。「出張特別試験案内」は東北安全衛生技術センターまたは最寄りの労働基準協会でお受け取りください。また、当協会のホームページでもご覧いただけます。(http://www.exam.or.jp) ※お住まいの住所に関係なく、どの地区でも受験できます。

東北安全衛生技術センター
〒02233-2303 181

地区名	山形地区 (山形市)	第1回 岩手地区 (滝沢市)	青森地区 (青森市)	秋田地区 (秋田市)	庄内地区 (鶴岡市)	福島地区 (郡山市)	第2回 岩手地区 (盛岡市)
試験日	7/5(土)	8/24(日)	9/6(土) 9/7(日)	10/4(土)	10/26(日)	11/30(日)	12/7(日)
窓口受付期間	5/7~5/16	6/23~6/27	7/7~7/11	7/28~8/1	8/25~9/5	9/29~10/3	10/6~10/10
郵送受付期間		6/23~7/4	6/6~7/18	7/28~8/8		9/29~10/10	10/6~10/17
一級ボイラー技士	○	○	○9/7	○	○	○	○
二級ボイラー技士	○	○	○9/6	○	○	○	○
ボイラー整備士	○	○	○9/7	○	○	○	○
クレーン・デリック運転士 (クレーン限定)	○	○	○9/7	○	○	○	○
移動式クレーン運転士	○	○	○9/7	○	○	○	○
発破技士			○9/7				
第一種衛生管理者	○	○	○9/6	○	○	○	○
第二種衛生管理者	○	○	○9/7	○	○	○	○
エックス線作業主任者			○9/7				
潜水士			○9/7	○	○	○	○

富岡町職員採用候補者試験のお知らせ

町では、平成27年度の職員採用候補者(大学卒業程度、短大卒業・高専卒業程度、資格免許職)の試験を次のとおり行いますので、受験を希望される方は、申込受付期日に富岡町役場総務課へお申し込みください。

- 試験区分、採用予定人員及び受験資格

試験区分	採用予定人員	受験資格
行政 土木	若干名	昭和60年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた者(学歴は問いません)
行政 土木	若干名	昭和60年4月2日から平成5年4月1日までに生まれた者(学歴は問いません)
試験区分 <td>採用予定人員 <td>受験資格</td> </td>	採用予定人員 <td>受験資格</td>	受験資格
短大卒業・高専卒業程度	若干名	平成3年4月2日から平成7年4月1日までに生まれた者(学歴は問いません)

(3) 資格免許職

試験区分	採用予定人員	受験資格
保健師 若干名		昭和50年4月2日から平成6年4月1日までに生まれた者(学歴は問いません) 保健師の資格・免許を有する者又は平成27年4月までに取得見込みの者

2 試験の方法

資格免許職	短大卒業・高専卒業程度		大学卒業程度		試験区分	試験の方法
	保健師	土木	行政	土木		
第一次試験	第一次試験	第一次試験	第一次試験	第一次試験	保健師	筆記試験
第二次試験	第二次試験	第二次試験	第二次試験	第二次試験	土木・行政	筆記試験
第三次試験	第三次試験	第三次試験	第三次試験	第三次試験	保健師	筆記試験
第四次試験	第四次試験	第四次試験	第四次試験	第四次試験	土木・行政	筆記試験

- 試験期日及び試験場

試験場 富岡町役場
福島市金谷川一番地

※職員採用候補者「高校卒業程度」等の試験については、広報6月号にてお知らせする予定です。

(2) 第二次試験

試験場 富岡町役場郡山事務所
郡山市大槻町字西ノ宮48-5
平成26年10月頃
申込受付期間
平成26年5月29日(木)から平成26年6月27日(金)まで(ただし、土曜日及び日曜日を除く午前8時30分から午後5時15分まで)

5 申込手続

受験案内・受験申込書は、役場総務課で交付いたします。郵便により受験申込用紙を請求する場合は、封筒の表に「〇〇試験申込」と書き、430円切手を貼った返信用封筒(角2)を同封して送付してください。

◆お詫びと訂正◆

広報とみおか4月号お知らせ版の1ページTomioka photo albumの写真撮影日に誤りがありましたのでお詫びして訂正いたします。
誤：2012年4月撮影 正：2010年4月撮影

問い合わせ先

- 富岡町役場郡山事務所
富岡町議会事務局
〒963-0201
福島県郡山市大槻町字西ノ宮48-5
FAX 024-961-3441
- 富岡町教育委員会
〒963-8025
福島県郡山市桑野2丁目1-1
FAX 024-953-6304
- 楮葉分室(復旧課・復興推進課)
〒979-0515
福島県双葉郡楮葉町大字上小崎字小山6-2
FAX 024-25-8254
- 富岡町役場いわき支所
〒970-8026
福島県いわき市平字梅本15
福島県いわき市合同庁舎南分庁舎2階
FAX 0246-88-1975
- 富岡町役場三春出張所
〒963-7719
福島県田村郡三春町山字泉沢100-1
FAX 0247-62-0901
- 富岡町役場大玉出張所
〒969-1302
福島県安達郡大玉村玉井字台45-1
FAX 0243-48-1147
- ※上記への連絡はコールセンター
☎0120-33-6466まで
- 富岡町役場連絡所(下郡山集会所)
〒979-1132
福島県双葉郡富岡町下郡山字真壁327-1
☎ 080-5743-5409
080-5743-5410
FAX 0240-25-8804
- 大玉仮設診療所
〒969-1302
福島県安達郡大玉村字横堀平158-10
☎ 0243-48-4710
FAX 0243-48-4710
- NPO法人富岡町さくらスポーツクラブ
〒963-8025
福島県郡山市桑野2丁目1-1
☎ 024-983-5299
FAX 024-983-5297
- 富岡町社会福祉協議会
〒963-8041
福島県郡山市富田町字若宮前32
高齢者等サポート拠点施設内
☎ 024-935-3345
FAX 024-935-3346
- おだがいさまセンター
〒963-8041
福島県郡山市富田町字若宮前32
高齢者等サポート拠点施設内
☎ 024-935-3332
FAX 024-935-3334

富岡町ごみ出しカレンダー

平成26年5月

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
				燃えるごみ、ごみ出し日		
4	5	6	7	8	9	10
燃えないごみ、ビン類・カン類 ごみ出し日						
11	12	13	14	15	16	17
燃えるごみ、ごみ出し日						
18	19	20	21	22	23	24
燃えるごみ、ごみ出し日						
25	26	27	28	29	30	31
燃えないごみ、ビン類・カン類 ごみ出し日						

平成26年6月

日	月	火	水	木	金	土
1	2	3	4	5	6	7
燃えるごみ、ごみ出し日						
8	9	10	11	12	13	14
燃えるごみ、ごみ出し日						
15	16	17	18	19	20	21
燃えないごみ、ビン類・カン類 ごみ出し日						
22	23	24	25	26	27	28
燃えるごみ、ごみ出し日						
29	30					
燃えるごみ、ごみ出し日						

ごみは分別したうえで、上記の回収日にお出しください。回収業者は、数日かけて町内のごみステーションを巡回し、順次、ごみの回収を行います。
粗大ごみやリサイクル対象家電、危険物等は、ごみステーションでの回収はいたしません。分別方法やごみの出し方については、3月20日発行の広報お知らせ版に同封の「平成26年4月からのご家庭の片付けごみの回収について(お知らせ)」又は町ホームページをご参照ください。

生活環境課 環境衛生係

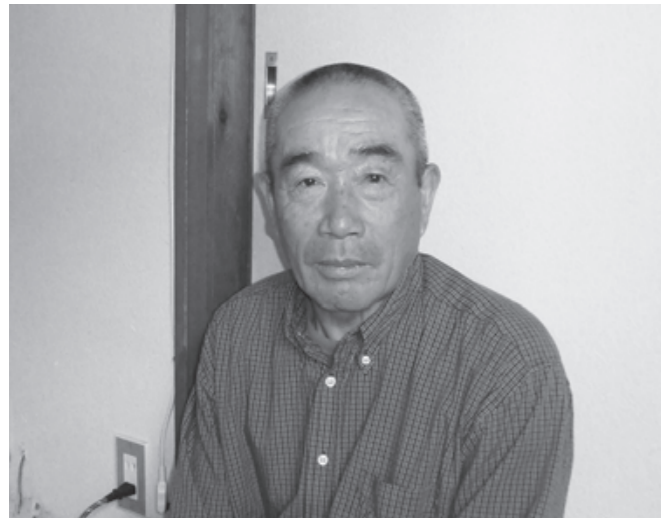
TOMIOKA

桜通信

第25号

東日本大震災と原発事故により、私たちはふるさとを離れ、全国に分散した避難生活を強いられています。

この「TOMIOKA (とみおか) 桜通信」では、避難生活を続ける皆さんや、富岡町にゆかりのある方々のもとを訪ね、皆さんの声をお届けし、ふるさと「富岡」という「絆」をつないでいこうというものです。



家族全員の生活が懐かしい

深谷行政区域長、町民生委員を務めている。いずれも、避難により町民が分散し、満足な活動ができないと複雑な思いだという。
現在、郡山市内の借上げ住宅で、妻と共に生活している。

オートバイが帰宅の助けに

被災当時、私はガスメーターの検針業務を行っていたため、オートバイで町内各戸を訪問していました。大地震に遭ったのは、リベラルヒルズ付近の住宅で検針作業をしていたときで、

揺れで足元はふらつき、停めたオートバイは転倒してしまうほどでした。大きな地震のため、これは大変だと思い、すぐに自宅を目指しました。途中、道路が損壊し自動車を通れないところも数多くありましたが、オートバイのため通行することができました。

帰宅すると、自宅には、妻、母、長男の妻が憔悴した様子になっていました。妻によると、地震発生時、母はデイサービスから帰宅したばかりで自室のベッドの上におり、地震の揺れに危険を感じたため外に連れ出そうとしましたが、身動きが取れなかったそうです。結局、動けない自分を置いて出ると訴え、妻と長男の妻は玄関先の柿の木にしがみついていた。収まるのを待ったということでした。幸い3人にけがはなく、その後、孫や長男が帰宅し、その夜は余震で危険なため庭にテントを張り、その中で朝を待ちました。

翌朝、長男と共に外出し帰宅したところ、妻が避難指示を告げる防災広報を聞いたと話したため、車2台に分乗して町を離れ、三春町の体育館に身を寄せました。しかし、高齢の母に体調不良が見られたため、二次避難

所となった同町内にある宿泊施設で9月までお世話になり、その後、現在生活している借上げ住宅に移りました。
できることは限られますが…

私は富岡町民生委員と深谷行政区域長を務めています。いずれも、災害で大変な時こそ動かなくてはならない役割ですが、避難を強いられ、家族ですら満足に同居できないという「分散」してしまった環境では、なすすべがなく残念でなりません。避難してから何度か行政区総会の開催を試みましたが、副区長らと話し合った結果、避難先からの移動など皆さんの負担を考慮し、開催を見送ってきました。また、この3月で区長としての任期を満了しましたが、少しでも地域のために何かできればという思いで、引き続き務めさせて頂くことにしました。

郡山での生活を始めて2年半になりますが、避難前まで同居していた長男夫婦と孫たちは三春町内の借上げ住宅で、母は昨年4月から郡山市内の老健施設で生活しています。どちらも私たち夫婦が住む場所と遠くないため、時折行き来しては、お互いの元気な様子に安堵しています。



まちの思い出



まちの思い出

猪狩 考平さん (小浜)

TOMIOKA 桜(さくら) 通信



地域の誇りを太鼓の響きに込めて！

人の恩を実感した避難生活
今、「人に助けられる」ことのありがたさを感じる日々を送っています。生まれてからこれといった不自由を味わうことなく育ってきた私にとって、東日本大震災、特に津波被災と原発事故による避難は、それまで当たり前だと思っていたことが、どれだけありがた

被災当時、日本大学工学部(郡山校舎) 4年生。卒業と双葉郡内での就職を目前に控えていた。避難後、仕事の傍ら小浜風童太鼓に参加している。

故郷の復興に奮起！
避難後、就職内定先とは別の町にある会社で1年ほどお世話になり、内定先での勤務を経て昨年11月、除染や建設関連作業に携わる会社を設立しました。当初、周囲からは反対を含め厳しい言葉をいただきましたが、未曾有の事態の中だからこそ、復興の一助になるようなチャレンジをしてみたいという決意で行動しました。雇われることは違い、従業員を雇って会社を経営することは、想像していた以上に大変だと感じています。会社とはい

たいことだったかを実感する大きな転機となりました。
震災当日、私は地元に戻り、高校時代の同級生とともに浪江町内にいました。大地震が発生し、急いで富岡を目指しましたが、道路の損壊と渋滞でなかなかたどり着けませんでした。道中、大津波の被害をラジオ等で知り、海岸近くにある自宅と家族の安否が気になって仕方がありませんでした。どうか無事でいてほしいと祈り続けましたが、残念なことに自宅は津波で被災。町内の避難所などで家族を探しましたが、祖父は今も行方が分からないままです。



小浜風童太鼓の榎内会長をはじめメンバー6人でがんばっています

え事務所を構えられるわけではなく、現在の借上げ住宅を事務所として利用するなど組織として不十分な状態ですが、今後も頑張つて社業にあたり、ついてきてくれる従業員の福利厚生の実を図っていききたいと思っています。
私は仕事の傍ら、自宅のある地域で活動していた小浜風童太鼓に参加しています。太鼓は津波で流されてしまいましたが、助成制度を利用して再び揃えることができました。また、観陽亭さんに練習場所を提供していただいたり、いわき市の太鼓愛好団体からご協力をいただくなど、多くの皆さんの助けにより平成23年冬から活動を再開しました。これからも、故郷復興への願いを仕事や太鼓演奏に込め、進んでいきたいと思っています。

山田 裕文さん (王塚)

TOMIOKA 桜(さくら) 通信



またいつか、旅行・観光ができる日が来るように…

震災前まで、(株)報徳バスの旅行部門「報徳ツアーズ」富岡営業所に勤務していた。現在は同社バス輸送部門に所属している。
避難後、家族と共にいわき市内で生活している。

偶然、子どもと学校で被災
平成23年3月11日、私は仕事のため、午後3時から富岡二小で打ち合わせをする予定でした。約束の時間より早めに同校に到着し、そこで地震に襲われました。揺れが落ち着く

とすぐに、校内にいた子どもたちは先生方に誘導され校庭に集まってきました。非常事態のため仕事の打ち合わせは中止になり、私は旅行会社の営業マンから、一人の父親に戻りました。当時、同校5年生だった長男の無事を確認するとともに、まだ携帯電話が多少通じたため、長男の同級生の中で電話番号を知っている保護者に連絡を取りました。
その後、長男と共に妻を勤務先へ迎えに行き、夕方近くになって帰宅しました。地震発生前に帰宅していた長女(当時、中学2年生)は、私たちの姿を見て安心したのか号泣してしまいました。自宅は、建物そのものに被害はありませんでしたが、室内は家具が倒れ、物が散乱した状況でした。
その日は富岡二小の体育館で過ごし、翌朝いわき市にある妻の実家へ向かいました。数日間お世話になりましたが、原発事故の深刻化とともに、いわき市内でも自主避難者が多くなつたため、子どもたちの安全を考え、白河市や栃木県那須町を経て、千葉県船橋市に住む妻の知人の世話で同市に向かいました。そこでは3月末まで過ごしましたが、子どもたちの学校や私の仕事のことがあったた

め再びいわき市内へ戻り、現在生活している借上げ住宅に移りました。
仕事を通して復興支援
私は、いわき市に戻って6月から仕事に復帰しましたが、勤務していた店舗と担当していた地域のほとんどが警戒区域となったため営業ができず、また、震災直後で旅行や観光の需要が急減したため、バス輸送部門に配属されました。現在、私は営業・労務部長として、一時帰宅のサポート業務などにも携わっています。
一時帰宅される皆さんのニーズにお応えするにあたり、双葉郡の住民として、富岡町をはじめ一時帰宅の対象区域をよく知っていることや、長年、担当してきた旅行・観光業務で得たノウハウを生かせるのではないかと思っています。避難区域の再編で立入りできる地域は増えましたが、人の暮らしを再開するまでにはまだまだ道のりと感じています。
いわき市での生活は3年を超え、子どもたちはすっかり地域になじんできます。長女は高校生活の傍らよさこいチームに所属し、長男は中学校の野球部でキャプテンに就くなど、明るく元気に頑張っています。



富岡町では、多くの「気づき」や「学び」をいただきました

富岡に育ててもらった6年間
私はいわき市出身で、大学卒業後は福島県教員として中学校の保健体育を受け持つてきましたが、平成13～15年度の3年間、富岡町教育委員会に派遣され、社会教育主事として

震災前、社会教育主事として富岡町教育委員会への派遣や双葉地区教育構想など、長年にわたり当町における教育分野の発展に関わってきた。現在、いわき教育事務所に勤務している。

富岡町公民館に勤務していました。学校の教育現場から、多くの住民の皆さんと関わる現場への異動は初めての経験で、果たして自分に職責を全うできるものか非常に不安を感じていました。役場職員の皆さんをはじめ町民の皆さんは、とても温かく迎え入れてくださいました。当時、各地で総合型地域スポーツクラブの立ち上げが議論されていたが、富岡町では周辺の町村に先駆けて、その取り組みが行われていました。連日、夜遅くまで議論を重ねることもありましたが、町民の皆さんの思いを一つにして、さくらスポーツクラブを発足させました。そのお手伝いをさせていただけたことは、私にとって大きな喜びでした。また、平成18～20年度の3年間は福島県体育協会に派遣され、双葉地区教育構想の推進に携わりながら再び富岡町で勤務しました。全国各地から子どもたちを集め、スポーツ選手を養成する専門的教育を行うという取り組みでしたが、地域の皆さんから様々な場面でご協力をいただきました。また、発足当初は各競技・各選手とも成績が振るわないこともありましたが、地域を挙げて家族の

ように応援していただきました。こうした機運は、選手たちだけではなく、組織の運営や選手養成指導にあたる私たちにとっても、そのモチベーションの維持・向上に大きく寄与されました。私は、6年間の勤務で様々なことを勉強させてもらいました。富岡町は、私にとって第二の故郷のようなものです。そのため、大津波や原発事故により富岡町が大きな被害を受けたことは、とてもショックでした。教育を通じた恩返し
被災から3年以上経過した現在、厳しい現実にあっても、新たな一歩を踏み出そうとする皆さんの姿は、とても心を動かされるといわれています。私に何ができるといってもではありませんが、教育を通してそうした皆さんの姿を伝え、一人でも多くの子どもたちが震災を忘れず、福島市の未来を支えることができる子どもたちを育てることができるとなった富岡町の皆さんへのせめてもの恩返しであり、私ができる復興に向けた役割なのではないかと思っています。



子どもに故郷を見せられる日がくるように

旧姓・桑原。被災当時は看護師として双葉厚生病院に勤務していた。現在、夫や長男と共に東京都内で生活している。

各地を転々とした被災直後

私は震災前まで、双葉厚生病院に看護師として勤務していました。大地震が発生した日は休みだったため、行きつけの整体院で施術を受けていました。すぐに帰宅し、自宅にいた家族の無事を確認しましたが、いわき方面に出かけていた祖母とは連絡

が取れず心配でした。地震が治まったあとも、大津波警報の発令や大きな余震が続いていたため、中央行政区の皆さんと共に、町総合体育館を経て学びの森へと避難しました。翌朝の避難指示により町を出て川内村に向かいましたが、同村に到着したときはすでに避難所となった施設の多くは満員状態でした。幸い学校の教室に入ることができ、前日から出かけていた祖母も合流し、家族全員が揃いました。私たち家族は、同村で数日間を過ごしましたが、原発の爆発や火災が相次ぎ更なる避難となったため、ビッグパレットふくしまを経て叔母を頼り東京都内に向かい、しばらくお世話になりました。故郷を離れ、テレビや新聞などを通して原発事故の推移を見守りましたが、勤務先の患者さんや同僚たちはどうなってしまったのか、心配と不安が募る中、何もできない自分がいるというジレンマに悩んだこともありました。東京に滞在してから1週間ほどして、親戚が手配してくれた埼玉県春日部市にあるマンションに移り、避難以降やっと家族だけで一息つくことが

できました。不安な気持ちが続けばと思い、家族で近隣に外出するようになり、中学生だった妹は4月から学校に通い始めました。しばらく春日部市で生活しましたが、妹の高校進学や、安全が確保される範囲で少しでも故郷の近くで生活したいと思い、平成23年7月に一家庭でいわき市内へ移り、私は8月から福島労災病院で看護師としての勤務を始めました。そんな中、当時つき合っていた夫がいわき市内から東京都内へ転勤することになり、平成24年春結婚を機に家族と離れ、夫と共に東京での新しい生活を始めました。新しい門出を迎えて
その後、同年7月、幼い頃からの夢だったハワイで家族や親しい友人に囲まれ結婚式を挙げるのができ、昨年の1月には長男が誕生しました。幸い、夫の実家が東京都内にあるため、いろいろと面倒をみていただいています。この3年間、故郷の将来を案じる日々が続いていますが、子どもの成長を見守りながら、家族で故郷の土を踏める日が来ることを祈っています。

温かいご支援に 全国の皆さまより、ご寄付な

感謝いたします らびに義援金をいただきました

みんな元気になあれ オランダから届いた「てるてる坊主」



てるてる坊主を届けた左から鈴木さん、小貫さん、
(宮本町長をはさみ)市村さん

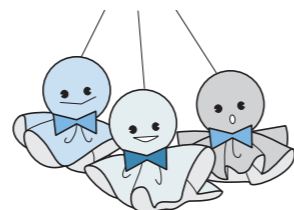


表情豊かなてるてる坊主

3月28日、「オランダ・福島てるてる坊主×1000プロジェクト」から、21体のてるてる坊主が届けられました。

このてるてる坊主は、オランダ在住の國森由美子さんが発起人となり、震災や原発事故で今も不安な生活を送る福島の子どもたちを元気づけようとオランダの子どもたちが作ったものです。國森さんから寄贈を託された小貫和洋さん(中央)、鈴木文子さん(本町)、市村高志さん(王塚)が富岡町役場郡山事務所を訪れ、宮本町長にてるてる坊主を手渡しました。

てるてる坊主には、一つひとつオランダの子どもたちからの応援のメッセージが添えられており、後日、富岡小学校三春校の児童たちにプレゼントされました。



宮本町長に義援金を手渡す豊田さん(左)

筑波大学津軽三味線 倶楽部から2度目の義援金

1月に茨城県つくば市で開催された、筑波大学井坂流津軽三味線倶楽部「無絃塾」の卒業公演において、同大学の学生による募金活動が行われ、集まった浄財が富岡町に寄付されました。

同倶楽部からの寄付は昨年に引き続き2度目となり、代表で義援金を預かった豊田直助さん(高津戸)が2月27日に富岡町役場郡山事務所を訪れ、宮本町長に手渡しました。

変わらぬ心 温かな花束の贈りもの

“花言葉は変わらぬ心” 3月10日、和歌山県JA紀州中央青年部より、スターチスとカスミソウの花束、計300本が寄贈されました。

同青年部では、エコキャップ運動を通じこれまで5回、花束を寄贈されており、この日はエコキャップ推進協会南東北支部の今泉恵一支部長が富岡町役場郡山事務所を訪れ、齊藤副町長に花束を手渡しました。

いただいた花束は、3月11日に行われた「東日本大震災慰霊祭」で列席者に配られました。



齊藤副町長に花束を手渡す今泉支部長(右)

義援金をいただいた企業・団体・個人名を掲載いたします (平成26年2月～3月分 順不同・敬称略)

- これまで寄せられた義援金 5億2,766万3,647円(3月末日現在)
- 配分された額(国、県義援金は除く) 2億3,994万円(3月末日現在)

落敏行(兵庫県加古川市) 大関満朗(東京都世田谷区) 井川自転車店(東京都品川区)
石川明(埼玉県さいたま市) 筑波大学津軽三味線倶楽部無絃塾(茨城県阿見町)
吉田雄二 ガラオケレンチュウ 津之浦幸子 ワタナベユウカ 木元久雄(大阪府堺市)
昭和63年度富岡第一中学校同窓会「紺碧の会」 福島県保育協議会会長國井隆介(福島市)
新常磐交通株式会社(いわき市) 大畑道子(静岡県沼津市) 大南建設株式会社(福井県)
公益社団法人日本動物病院福祉協議会(東京都新宿区)



宮本町長に寄付金を手渡す左から武田友美さん、
大内勉さん、大浦弘一郎さん

全国で頑張る富岡の子どもたちへ 富岡一中同窓会から寄付金

富岡第一中学校第42回卒業生による「紺碧の会」(代表幹事・藤館克共さん)のメンバー3人が3月11日、富岡町役場郡山事務所を訪れ、宮本町長に寄付金を手渡しました。

今回の寄付は、同会幹事会のメンバーから「震災後も各地の避難先で頑張っている富岡の子どもたちを応援するために、教育委員会へ寄付をしたい」との声が上がり、今年1月に行われた同窓会の席上、参加者の同意を得て実現したものです。

町内の放射線量

富岡町が独自に実施した町内の空間放射線量の測定結果をお知らせします(単位:マイクロシーベルト/h)

測定日:平成26年4月14日(晴れ)・15日(晴れ)

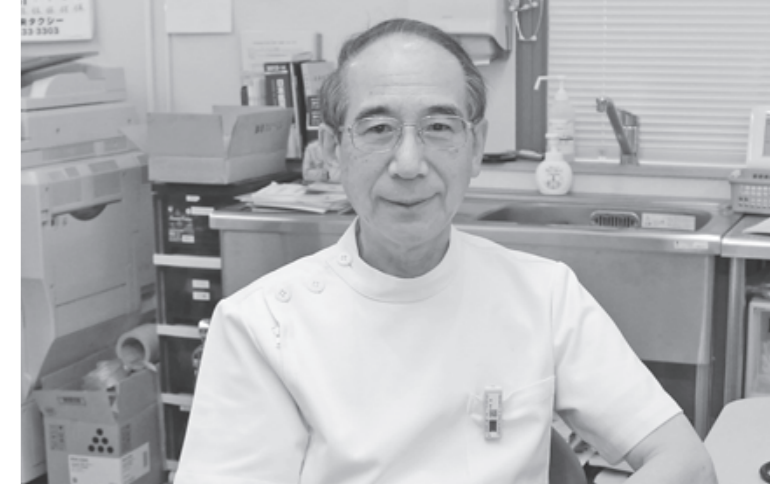
No.	測定場所	測定日	地上1m	地上10cm
1	下千里消防屯所	4/14	2.72	4.58
2	上千里消防屯所	4/15	1.53	2.53
3	杉内消防屯所	4/15	1.92	3.01
4	第二工業団地入口	4/15	2.92	2.90
5	高津戸集会所	4/14	4.91	7.85
6	富岡第二中学校東側	4/14	1.61	2.37
7	新夜ノ森集会所	4/14	6.04	9.33
8	夜の森公園	4/14	2.82	4.88
9	松の前待避所	4/14	7.50	8.09
10	小良ヶ浜集会所	4/14	4.77	5.87
11	町境(小良ヶ浜地区)	4/14	6.08	7.77
12	深谷消防屯所	4/14	5.02	5.65
13	富岡町営野球場	4/15	0.98	0.70
14	観陽亭前	4/15	1.16	2.12
15	富岡合同庁舎西側	4/15	2.79	3.03
16	富岡養護学校	4/15	3.17	8.21
17	老人福祉センター	4/14	6.12	10.00
18	夜ノ森駅	4/14	5.78	7.51
19	王塚集会所	4/14	1.44	1.01
20	諏訪神社前	4/14	2.70	3.71
21	上本町消防屯所	4/14	3.07	4.26
22	上本町集会所	4/14	2.31	2.91
23	リベラルヒルズ入口	4/15	2.07	4.05
24	赤木集会所	4/15	1.82	3.90
25	上郡山集会所	4/15	1.29	2.07
26	太田集会所	4/15	0.68	0.41
27	原下消防屯所	4/14	1.39	1.82
28	富岡駅	4/15	0.84	1.45
29	清水消防屯所	4/15	1.86	2.53
30	役場	4/14	0.92	1.11
31	浄化センター	4/15	0.53	0.67
32	毛萱集会場	4/15	0.47	0.76
33	富岡保育所	4/15	2.02	3.56
34	中央児童館	4/14	1.60	2.45
35	栄町駐車場	4/15	1.16	0.80
36	岩井戸消防屯所	4/15	1.51	2.12

No.	測定場所	測定日	地上1m	地上10cm
37	小浜住宅団地内公園前	4/15	3.48	5.37
38	双葉環境センター	4/15	2.15	2.50
39	NHK電波塔入口(浜街道)	4/15	3.55	5.30
40	深谷集会所	4/14	4.75	5.23
41	赤坂神社前	4/14	5.44	7.66
42	太平洋フリーディング前	4/14	10.20	17.20
43	みよし前交差点	4/14	11.00	12.40
44	富岡自動車学校前	4/14	5.78	10.30
45	リフレ富岡	4/14	3.71	4.52
46	東洋育成園前	4/15	3.51	5.40
47	富岡インター駐車場	4/15	2.93	4.37
48	上手岡児童館	4/14	2.72	3.07
49	下千里ライスセンター前	4/14	2.76	4.45
50	館山荘前	4/14	3.31	4.65
51	夜の森つつみ公園	4/14	3.85	4.82
52	総合運動場東側駐車場	4/14	4.63	6.28
53	華の樹前	4/14	5.17	6.62
54	宝泉寺前	4/14	1.30	1.04
55	国道6号第二原発入口前	4/15	1.03	1.70
56	猪狩スタンド前	4/15	0.68	0.38
57	なべや駐車場前	4/14	1.13	2.38
58	大東銀行富岡支店前	4/14	1.46	2.25
59	富岡漁港	4/15	0.49	0.46
60	サンライズイン富岡前	4/15	0.84	1.74
61	福島富岡簡易裁判所前	4/15	2.21	4.75
62	ヨークベニマル富岡店前	4/15	1.88	3.45
63	今村病院前	4/14	3.71	7.11
64	福島銀行富岡支店前	4/14	1.77	3.60
65	龍台寺前	4/15	1.84	4.28
66	清水団地前	4/15	2.13	3.37
67	猪狩電気通信工業前	4/15	1.84	2.77
68	上郡消防屯所	4/15	1.83	3.25
69	岩井戸鉱泉	4/15	1.13	1.53
70	富岡工業団地	4/15	1.41	1.61
71	成沢の滝入口	4/15	1.17	2.09
72	沼名子橋	4/14	2.31	3.55

測定器:γ線用シンチレーションサーベイメーター(日立アロカメディカル社製)

私たちのお医者さん

こんにちは。大玉仮設診療所です!



第14回 「肥る体質、太らない体質」

井坂 晶 医師(富岡中央医院)

避 難生活が3年過ぎ、仮設に入って間もなく丸3年、我慢も限度ではないでしょうか。狭い仮設の中では動きならず、どうしても運動不足になってしまいがちです。これまで、先生方から診療所便りとして、健康アドバイスを書いて頂きました。生活不活発病、認知症予防など色々な問題点を指摘していただきました。私はメタボリックドミノや食生活と肥満の話をしてきました。今回も万病の元、肥満について、特に痩せるホルモンの話をしてみたいと思います。世の中に好きだけ食べても肥らない人が確かにいます。何故肥らないのでしょうか。

一般には、食べて動かなければすぐ肥ってしまいます。太るのは簡単、痩せるのは大変努力、覚悟が要ります。糖尿病の方に次回まで「1kgでも2kgでもいいから痩せてきてね」とお願いしてもなかなか無理ですね。逆に薬で血糖値を下げてい



るのを良いことに、体重増加が見られる方が珍しくないのです。前に食事の仕方15条をお知らせしましたが、その中に青身の魚には、善玉コレステロールやDHA、EPAなど長生きの酵素が豊富に含まれる話をしました。これが今回のポイントです。さて、痩せるための薬はないのですか? あつたら出してくださいと云われますが、確かに保険適応の薬はあるのですが、縛りがきつくて自由に使うことができないのです。糖尿病の薬の中にもあるのですが、一般的ではありません。ならばどうしたら良いのでしょうか。話は変わって、始めに戻ります。肥満知らずの人たちが確かにいます。最近になって、肥りにくくさせる物質が見つかったのです。その分泌の良い人たちがいることが分かったのです。それが痩せるホルモン「GLP-1」です。これは、消化管から出るホルモンで、ある種の物質の刺激で、小腸の下部や大腸上部にあるL細胞から分泌されます。「GLP-1」の作用は主に3つ

診療科目: 内科・外科
 診療場所: 大玉仮設診療所
 大玉村玉井字横堀平158-10
 受付時間: 午前8時30分~11時30分
 午後1時~4時

診療日

曜日	診療科目	担当医師
月	休診	
火	休診	
水	内科・外科	佐藤正憲
木	内科・外科	井坂 晶
金	内科	堀川章仁

その刺激物質とは、「食物繊維」です。従って日々の食餌に食物繊維が豊富なメニューを摂り入れることです。さらにもう一つ、サバやいくら、マグロ、魚介類、特に青身の魚に含まれる「EPA」です。美容にも良い「DHA」も沢山含まれていますので、これらをもつて摂っていると長生きにもつながります。これらを多く含んでいる代表は、サバ缶です。なかなか山国では、新鮮な魚が食べられません。しかし、缶詰めなら何処でも手に入ります。和え物、サラダ、柳川、そぼろ、煮物など色々工夫して日頃沢山摂り入れるように心がければ、自然と痩せるかもしれません。食べても肥らない人はこの痩せるホル



発行／富岡町
編集／富岡町役場企画課広聴広報係
〒963-0201 福島県郡山市大槻町字西ノ宮48-5
TEL：0120-33-6466 FAX：024-961-3441

富岡町公式ホームページ <http://www.tomioka-town.jp/>
Eメールは富岡町役場公式ホームページの「Eメールはこちらから」をクリックし、各課あてにお送りください。
郡山駅前9番乗場発 新池下団地行き または 大槻行き 停留所 西の宮停留所

富岡一中第42回生「紺碧の会」同窓会 写真提供 大浦弘一郎さん(下郡山)



富岡第一中学校 第42回生 同窓会 紺碧の会 H26.1.3 東 カルヂェ ド シャン・ブリアン

1月3日、いわき市において厄流し神事と久々の同窓会を行い、連絡が取れた方のうち56名の懐かしい旧友と再会を果たすことができました。

震災で亡くなられた友へ黙祷を捧げ、お互いの近況を語り合いながら、時間が経つのを忘れるほど有意義な時間を送りました。今後も友と故郷の絆を繋ぎ、またの再会を誓い合いました。

「春風に吹かれウォーキング」写真提供 ふくしま絆カフェ富岡



3月28日に行われた楽笑元気アップ体操。この日は「ノルディックウォーキングin阿武隈川」と銘打ち、川べりの遊歩道を歩きました。

参加者の皆さんは、川面を渡る風と陽の光を浴びながら、待ち望んだ春を満喫していました。

あなたが撮った写真をお寄せください

広報とみおかでは、「私からの写真便り」に掲載させていただく写真を募集しています。

募集要項等は次のとおりですので、ふるってご応募ください。

◇応募要件

- ・富岡町民で、氏名、現在お住まいの市町村名、富岡町の行政区名を掲載できる方。
- ・ピントが合っている写真で、データの場合はメールに添付できるサイズ、プリント写真は専用の用紙に印刷されたもので大きさはL版か2L版。
- ・写真のタイトルと説明文(150字程度)を添付してください。
- ・応募された写真は返却できませんので、あらかじめご了承ください。

◇応募方法

- 現在お住まいの住所、氏名、富岡町での行政区名、電話番号をご記入の上、データの場合は下記アドレスへメールで、郵送の場合は封書で下記までお送りください。
- ・メールアドレス
tom0200-0@tomioka-town.jp
- ・住所
〒963-0201
福島県郡山市大槻町字西ノ宮48-5
富岡町役場郡山事務所企画課広聴広報係

今月の表紙

静寂の中で満開に咲き誇る桜。
人々に希望を与え、いつまでも私たちの帰りを待ち続ける。



この印刷物は、FSC®の基準に従って認証され、適切に管理された森からの木材を含んだ用紙を使用して印刷しています。